

作成・改定日 2010年11月10日
最新改定日 2020年10月21日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

製品名 フルショットS

製造業者情報

会社名 神栄産業株式会社
住所 〒171-0033 東京都豊島区高田3丁目16番4号 鹿野ビル2F
担当部門 東京営業部
電話番号 03-5391-3561
FAX番号 03-5391-3565
推奨用途及び使用上の制限 不快害虫駆除用エアゾール

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

記載以外の項目は分類対象外もしくは分類できない

引火性液体	区分外
可燃性・引火性エアゾール	区分2
高压ガス	液化ガス

健康有害性

急性毒性(経口)	区分外
急性毒性(経皮)	区分外
急性毒性(吸入：気体)	分類できない
急性毒性(吸入：蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入：粉塵：ミスト)	分類できない
皮膚腐食性／刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	区分外
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	区分外
発がん性	区分外
生殖毒性	区分1
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分2
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分2
吸引性呼吸器有害性	区分1

環境有害性

水生環境急性有害性	区分1
水生環境慢性有害性	区分1
オゾン層への有害性	分類できない

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

可燃性又は引火性の高いエアゾール、高圧容器：熱すると破裂のおそれ。
生殖機能又は胎児への悪影響のおそれ。神経系の障害のおそれ。
飲み込んで気道に侵入すると生命に危険の恐れ。
長期にわたる、又は反復ばく露による神経障害のおそれ。
水生生物に非常に強い毒性。
長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。

注意書き

【安全対策】

熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙
裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。
使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
取扱い後は手を良く洗うこと。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
環境への放出を避けること。

【応急処置】

ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師の診断／手当てを受けること。
気分が悪いときは医師の診断／手当てを受けること。
漏出物を回収すること。

【保管】

日光から遮断し、50℃以上の温度にばく露しないこと。
施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を得を受けた専門の廃棄物処理業者に委託廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一化学物質・混合物の区別 混合物

化学名及び一般名

成分名	C A S N o	含有量
シフェノトリン	39515-40-7	非開示
BHT	128-37-0	≤0.1%
溶剤	登録済	非開示
噴射剤(LPG:プロパン ノルマルブタン イソブタン)	74-98-6 106-97-8 75-28-5	非開示

* BHTについては、労働安全衛生法において通知対象物質に該当（第262）するが、本品中の濃度が規定値未満のため、非該当。

4. 応急措置

目に入った場合

- ・直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。まぶたの裏まで完全に洗うこと。
- ・出来るだけ早く医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

- ・付着物を布にて素早く拭き取る
- ・大量の水及び石鹼又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しないこと。
- ・凍傷にかかっている場合、痛みが残る場合は医者への処置を受ける。
- ・外観に変化がみられたり、痛みがある場合には医師の診断を受けること。

吸入した場合

- ・蒸気、ガス、粉塵等を大量に吸いこんだ場合には、直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。呼吸が止まっている場合には人工呼吸を行う。嘔吐物は呑み込ませないようにする。直ちに医師の診断を受けること。
- ・当該SDSや容器のラベルを、医師に示して診療を受ける。

飲み込んだ場合

- ・誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
- ・嘔吐物は飲み込ませないようにする。

5. 火災時の措置

使用可能消火剤

水 [×] 炭酸ガス [○] 泡 [○] 粉末 [○] 乾燥砂 [×]

消火方法

- ・適切な保護具を着用する。
- ・可燃性の物を周囲から、素早く取り除くこと。
- ・指定の消火器を使用すること。
- ・高温にさらされるエアゾール容器は、水をかけて冷却する。
- ・消火活動は、風上から行う。
- ・エアゾール容器は、高温になると破裂の恐れがあるので、消火活動には距離を充分に取る。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項

- ・ 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- ・ 作業の際には必ず保護具（ゴム手袋、保護マスク、保護眼鏡、保護衣等）を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、噴霧粒子を吸入しないようにする。
- ・ 液体が直接身体に触れると気化熱により凍傷を起こす。

環境に対する注意事項

- ・ 漏出物は、密閉出来る容器に回収し、安全な場所に移す。
- ・ 付着物、廃棄物等は、関係法規に基づいて処置をすること。
- ・ 付近の着火源・高温体及び可燃物を素早く取り除く。
- ・ 着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
- ・ 衝撃、静電気で火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。
- ・ 乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させて回収する。大量の流出には盛土で囲って流出を防止する。
- ・ 河川等へ排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

7. 取扱い及び保管上の注意

可燃性製品によることの注意

- ・ 高压ガスを使用した可燃性の商品であり、危険な為、火気の注意を守ること。
- ・ 炎や火気の近くで使用しないこと。
- ・ 火気を使用している室内で大量に使用しないこと。
- ・ 高温にすると破裂の危険があるため、直接日光の当たる所やストーブ、ファンヒーター等の暖房器具近くなど温度が 40℃以上となる所に置かないこと。
- ・ 火の中に入れてないこと。
- ・ 使い切って捨てること。

取扱い

- ・ 換気の良い場所で取扱う。
- ・ 容器はその都度密栓する。
- ・ 皮膚、粘膜、又は着衣に付着したり、眼に入らないように適切な保護具を着用する。
- ・ 取扱い後は手・顔などを良く洗い、休憩所などに手袋などの汚染保護具を持ち込まない。
- ・ 容器が高温になる場所で取り扱っていると、容器が破裂する恐れがある。
- ・ 屋外作業の場合には、風上から作業し、風を背後から受けるようにする。
- ・ 噴射剤に継続して触れると、凍傷や炎症の恐れがある。

保管

- ・ 保管場所は、食品、食器、飼料などと区別し、小児などの手の届かない所で、直射日光が当たらない乾燥した涼しい場所にする。
- ・ 容器は熱、発火源から離れた場所で、40℃以上にならない所に保管する。
- ・ 他の容器に移して保管しないこと。
- ・ 高压ガス保安法の規則に従う。

8. ばく露防止及び保護措置

保護具：	状況に応じて次の保護具を着用すること。
呼吸器系の保護：	有機ガス用防毒マスクを着用する。
手の保護：	耐溶剤性手袋を着用する。
眼の保護：	保護眼鏡を着用する。
皮膚の保護：	長袖の作業着を着用する。

9. 物理的及び化学的物質（原液の情報）

状態：	液体	臭気：	わずかな特異臭がある
色：	黄褐色透明	pH：	なし
引火点：	86℃（内容液）	発火点：	情報なし
密度：	797kg/m ³	その他：	特になし

10. 安定性及び反応性

安定性：	通常の手扱いにおいては安定。
反応性：	通常の手扱いにおいては安定。
避けるべき条件：	熱や発火源を避ける。
昆虫危険物質：	強酸化剤、強酸、強塩基、微細金属（アルミニウム、マグネシウム、亜鉛）2%以上のマグネシウムを含む合金。
危険有害な分解生生物：	刺激性ガス[-]NO _x [O]SO _x [-]その他[H ₂ CN、CO]

11. 有害性情報

（原液の情報）

急性経口毒性：	LD50 > 2,000mg/kg（組成からの推定値）
急性経皮毒性：	LD50 > 2,000mg/kg（組成からの推定値）
生殖毒性：	区分1に該当する成分を0.3%以上含有するため
特定標的臓器・全身	
毒性(単回ばく露)：	区分1(神経系)に該当する成分を1%以上10%未満含有するため
特定標的臓器・全身	
毒性(反復ばく露)：	区分1(神経系)に該当する成分を1%以上10%未満含有するため

12. 環境影響情報

（製品の情報）

魚毒性： 情報なし

（シフェノトリンの情報）

生態毒性(急性)：	魚類(ニジマス)96hr LC50 0.34 μg/L
	甲殻類(オオミジンコ)48hr LC50 0.34 μg/L
	藻類(緑藻)72hr ErC50 >0.014mg/L
生態毒性(慢性)：	藻類(緑藻)72hr NOECr 0.005mg/L

13. 廃棄上の注意

- ・自治体の条例や指導に従って処分すること。
- ・使用残、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約して処理すること。
- ・容器、機械・装置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。
- ・排水処理、焼却などにより発生した廃棄物についても、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」及び関連する法規に従って処理を行うか、委託すること。
- ・河川、湖沼、下水道等の水系や地下水を汚染する場所には捨てないこと。

1 4. 輸送上の注意

共通：取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。

陸上輸送：消防法、労働安全衛生法、毒劇法に該当する場合は、それぞれの該当法規に定められた運送方法に従うこと。

海上輸送：船舶安全法の定めるところに従うこと。

航空輸送：航空法の定めるところに従うこと。

国連番号：1950

1 5. 適用法令

- ・化学物質管理促進法(P R T R)：非該当
 - ・消防法：危険物第 4 類第 3 石油類(非水溶性)
 - ・労働安全衛生法：通知対象物質 第 262 B H T
 - ・高圧ガス保安法：液化ガス
 - ・毒物及び毒物取締法：非該当
-

1 6. その他の情報

- 1) 原料メーカーの安全データシート
- 2)化学物質総合情報システム(独立行政法人製品評価技術基盤機構)
- 3)化学商品(化学工業日報社)
- 4)JIS Z7253(2112) G H Sに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場内の表示及び安全データシート(S D S)

記載内容は現時点で入手できる資料、データに基づき作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。記載内容は情報提供であって保証するものではありません。また注意事項は通常の取り扱いを対象としたものであって、特殊な取り扱いの場合は、用途、用法に適した安全対策を実施のうえご利用ください。